

## 常温貯蔵が可能で不良環境・病害虫に強いスーパーセル苗の開発

## 1 中核機関・研究総括者

徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所 村井 恒治

## 2 研究期間

2004～2006年度（3年間）

## 3 研究目的

葉菜類のセル育苗は広く普及しているが、1セルあたりの培地量が少ないため移植適期幅が短い、幼苗のため移植時のほ場の土壌条件が限定される、病害虫に弱い等の欠点がある。このためセル育苗期間の後半に肥料を与えないことにより苗を硬化させ、常温貯蔵が可能で土壌の乾燥や病害虫に強いスーパーセル苗の育苗技術を開発する。

## 4 研究内容及び実施体制

スーパーセル苗の効率的育苗技術の確立（徳島県立農林水産総合技術センター、大阪府立大学）

肥料制限の経過が苗の生理・生態特性に及ぼす影響を解明し、簡便かつ短期間でのスーパーセル苗育苗技術を開発する。

不良環境や病害虫に対する強さの評価と育苗技術の確立（（独）

近畿中国四国農業研究センター、徳島県立農林水産総合技術センター、奈良県農業技術センター）

肥料制限の経過が不良環境や病害虫に耐える力にどの程度影響するか評価し、不良環境や病害虫に強い育苗方法を確立する。

スーパーセル苗の広域化技術（奈良県農業技術センター、徳島県立農林水産総合技術センター）

品目や作期の適応性を検討し、広範な技術活用を目指す。

スーパーセル苗の実用的育苗体系の構築（（有）竹内園芸）

経済性や実用性の評価を生産現場で行い、普及性の高い育苗体系を構築する。

## 5 目標とする成果

普及性の高いスーパーセル苗の育苗方法が確立される。これにより育苗業者は季節的な需要集中に容易に対応でき、効率的な育苗が可能になるとともに、苗の劣化が防げ、信頼性の高い苗の提供が実現される。また、農業者は不良環境や病害虫に強い苗を使用でき、低リスク管理・安心・ゆとり栽培の実現が期待できる。